

「英語表現」の副教材には『ジーニアス総合英語』

——コミュニケーションにつながる英文法を教えるために

編集部

◆『ジーニアス総合英語』の基本方針

英文法を学ぶのは、文法問題を解くためということもあるにせよ、英語でコミュニケーションをとるのにその知識が必要だからでしょう。「英語表現」の授業で教えられる英文法は、当然そのような、コミュニケーションにつながるものであるはずで、副教材『ジーニアス総合英語』も同じ考え方に基づいて編集されました。

例えば、山岡憲史先生が本誌 p.17 で紹介されているように、had better には「忠告」の意味であることを示すだけでなく、「警告・脅し」の意味になることがあると注意を促し（ここまでなら他書の多くにも載っています）、だから「I think you should ...」などの表現を使う方が無難」というところまで説明しています。また、分詞構文については、その形と意味の説明に一定の紙幅は割いたあと、さらにコミュニケーションの観点から、意味は文脈で決まるため「書く時には使わない方がよいが、読む時には文脈をよく読み取って解釈することが大切」とアドバイスしています。

『ジーニアス総合英語』はこのように、各文法事項について一通りの説明はしていますが、その説明の量にはメリハリをつけていたり、使用上の注意書きを添えていたりします。ともすれば「カタログ」的になりがちな英文法書に（文法事項を使うための）「マニュアル」的な要素を盛り込んでいるとでも言えばよいでしょうか。生徒に「コミュニケーションのための英文法」を身につけさせたいとお考えの先生にぜひ手にとっていただきたいと考えています。

◆講義動画などの付属教材が自習をアシスト

限られた授業時間で英文法を教えたうえでライティングなども指導するのは困難であるとの声をよく聞きます。生徒の自習を前提に授業を組み立てている先生もおられるのではないのでしょうか。しかし、例えば総合英語の何ページから何ページまでを家で読んでくるようにといった指示は、特に未習事項の予習の場合、生徒にとって小さくない負担となる可能性があると思われます。

『ジーニアス総合英語』は自習のための強力なアシスト役として講義動画を用意しています（購入特典）。各文法事項のエッセンスをととてもわかりやすく解説した講義は、予習や基本事項のおさらいに最適です。講師は代々木ゼミナールのベテラン講師の福崎伍郎先生。代々木ゼミナールのスタジオで撮り下ろした本格的な講義動画となっています。動画1本は5～10分程度と短いので（各章の時間はトータルで二十数分）、空き時間にスマートフォンで気軽に視聴することも、繰り返し何度も視聴することも可能です。

自習といえば、例文の暗記を課題としておられる先生も多いのではないかと思います。『ジーニアス総合英語』の暗唱例文集は携帯しやすい新書サイズです。また、フラッシュカードも用意しており、記憶や確認に活用することができます。

このように、『ジーニアス総合英語』は付属教材により生徒が自学自習しやすくなっていることも、特長のひとつです。詳しくは下記特設サイトをご覧くださいと思います。

https://www.taishukan.co.jp/gsogo_media/